ファシリティーうさぎ『エコロじい』

ファシリティーうさぎ『エコロじい』とは、ファシリティーというお茶が大好きな、
ECOを愛するウサギの老紳士です。
NTTファシリティーズのキャラクターとして
テレビCMなどで当社のECOをご案内しています。

■お問い合わせ先

株式会社NTT ファシリティーズ
CSR 推進室

〒108-0023
東京都港区芝浦3-4-1 グランパークタワー

Tel : (03)5444-5187　Fax : (03)5444-5610
E メール: xa05999@ntt-f.co.jp
URL: http://www.ntt-f.co.jp/csr/

NTTファシリティーズ

ハイライト版

CSR報告書2015

NTTファシリティーズグループ

私たちは、事業を通じ「Smart & Safety」な街づくりに貢献します。

私たちNTT ファシリティーズグループは、NTT グループの一員として、ICT・エネルギー・建築の技術を組み合わせた様々なソリューションで、「Smart & Safety」な街づくりに貢献します。

編集方針

本報告書は、2014年度の様々なCSRに関する取り組みと実績を報告し、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様と、より緊密なコミュニケーションを図っていくことを目的に発行しています。

掲載内容は、2006年度に制定（2011年6月一部改定）された「NTTグループCSR憲章」で定めた4つのCSRテーマに基づき、地球と人類が調和する持続可能で豊かな社会の実現に向けたNTTファシリティーズの事業と、環境保護や社会的課題解決への取り組みなど、ステークホルダーの皆様にとって重要と思われる情報を選定し報告しています。

■ 報告対象期間

2014年4月1日～2015年3月31日
（一部、2015年4月1日以降の活動と見通しを含んでいます。）

■ 報告組織の範囲

NTTファシリティーズ、7地域会社、及びNTTファシリティーズが出資する8グループ会社としています。

■ 発行月

2015年11月（次回：2016年11月予定）

■ 参照ガイドライン

・GRI（Global Reporting Initiative）ガイドライン（第4版）
・環境省「環境報告ガイドライン（2012年版）」

■ 記述について

・本報告書に掲載した内容は、過去の事実だけではなく、発行時点における計画や将来の見通しを含んでいます。これらは、記述した時点で入手できた情報に基づく仮定や判断も含んでおり、将来の活動内容や結果が掲載内容と異なる可能性があることをご了承ください。
・本報告書発行後、掲載内容に誤りがあることが認められた場合は、Webサイトにて報告し、正誤表を掲載します。
・本報告書において、「当グループ」とは、株式会社 NTTファシリティーズ及び NTTファシリティーズ地域会社7社、8グループ会社を示しています。
・本報告書における「社員」とは、一部を除き、契約社員、人材派遣、他を含みます。

編集方針……1
会社概要……1
営業成績・財産状況の推移……2
私たちの事業……3
私たちのCSR……5
社長メッセージ……7
人と社会のコミュニケーション……9
人と地球のコミュニケーション……11
安心・安全なコミュニケーション……15
チームNTTのコミュニケーション……17
コーポレート・ガバナンス、CSR推進体制……19
企業倫理・人権啓発・コンプライアンス……20
海外への拡大……21
第三者意見……22

**オフィスで、ご家庭で、皆様の日常生活を様々なファシリティ（設備）が支えています。
皆様の街に、私たちの多彩なソリューションが活きています。**

会社概要

■ 商号 株式会社NTTファシリティーズ
（NTT FACILITIES, INC.）
■ 本社所在地 東京都港区芝浦3-4-1グランパークタワー
■ 営業開始日 1992年（平成4年）12月1日
■ 資本金 124億円
■ 従業員数 5,500名
（2015年3月31日現在・NTTファシリティーズグループ）

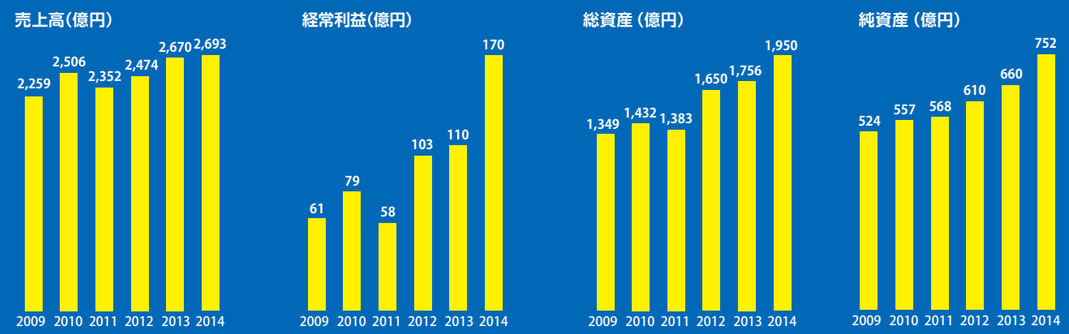
■ 地域会社（2015年4月1日現在）
株式会社NTTファシリティーズ中央・北海道・東北・東海・関西・中国・九州
■ グループ会社（2015年4月1日現在）
株式会社NTTファシリティーズFMアシスト
株式会社NTTファシリティーズ総合研究所
エヌ・ティ・ティジービー・エコ株式会社
エヌ・ティ・ティ・インテリジェント企画開発株式会社
NTT FACILITIES USA,INC.
Unitrio Technology Limited
Pro-Matrix
Electronic Environments Corporation
■ 業務内容 建築物・電力設備のコンサルティング、企画、設計、保守、維持管理など

「Smart & Safety」ソリューション（主なサービス）

■ メガソーラー
（太陽光発電システム構築ソリューション）
■ GreenITy Building®
（環境配慮型建築ソリューション）
■ 100年BCP®
（事業継続計画トータルソリューション）
■ Fデータセンター®
（データセンター構築トータルソリューション）
■ 高機能ビルマネジメント

営業成績・財産状況の推移

数値は全てNTTファシリティーズ、及び地域会社7社の合計です。



私たちの事業

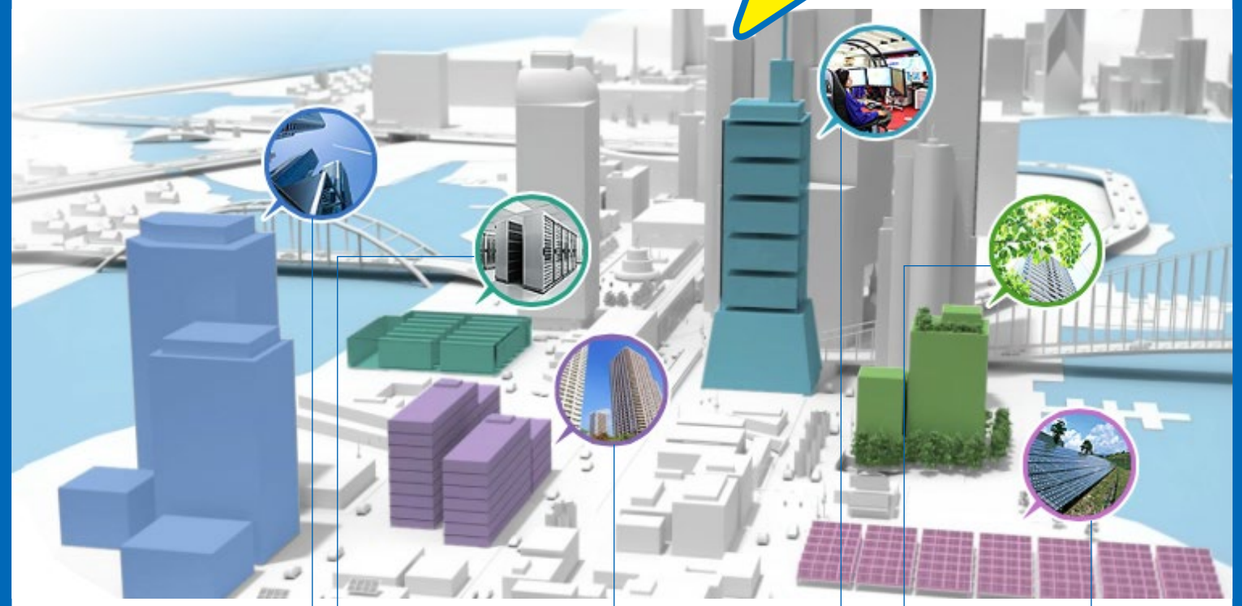
社会に浸透し、支える

私たちNTT ファシリティーズグループは、「地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる」という理念のもと、事業活動を通じてこれらの課題に取り組み、お客様ひいては社会に貢献し続けています。

In Focus ～もっと知りたい方へ～

webサイトのご案内
NTTファシリティーズの製品・サービスについて、より詳細にご紹介しています。多様なメニューをカテゴリー別に一覧化しています。

(サイトURL http://www.ntt-f.co.jp/service/)



ビル・施設・オフィス

省エネルギーや自然災害への対策、ICTの活用など、建物に求められる品質・機能は時代とともに変化しています。私たちは、企画・設計から工事・維持管理まで、建物のライフサイクル全てをカバーするワンストップサービスを提供します。

データセンター

クラウドの普及などをうけ、今やデータセンターは社会の重要インフラです。私たちは、日本の通信を支えてきた技術力と建築・エネルギー技術を組み合わせ、コスト節減や老朽化対策、拡張性への対応といった多角的な視点からデータセンターの価値を最大化します。

マンション

私たちは、オフィスビルや各種施設における多様なファシリティサービスのノウハウ・技術を応用し、省エネ・節電のサポートをはじめ、安心・安全で利便性の高いマンション実現に向けた各種サービスを提供します。

ファシリティマネジメント

土地や建物、設備といった業務用資産を最適な状態で保有することは、重要な経営課題の1つです。私たちは、最適なファシリティのあり方をめざし、コンサルティングから監視・オペレーションまで多様なサービスを提供します。

その他の分野

私たちは、ICT・エネルギー・建築の技術を融合・活用し、幅広い事業分野を手がけてきました。6次産業として成長が期待されるアグリビジネスや次世代に寄与する環境・教育分野など、総合力を活用してお客様の多様なニーズにお応えします。

太陽光発電

近年、自然エネルギーへの関心はますます高まっています。私たちは、大規模発電システムや停電対応型などの、多様な太陽光発電の製品・サービスを提供し、自然災害などのリスクに強く、環境にもやさしいエネルギー源を追求していきます。

例えば、高機能化が進む日常空間。

私たちは次世代の街づくりを常に考え、集合住宅や商業施設、オフィスビルの設計、省エネ・節電のサポートをはじめ、先進のスマート化を提案しています。

商品・サービスの事例
- GreenITy Building®
- Remoni®
- マンション電力提供サービス
- EnneVision®

Life

例えば、大規模オフィスや、データセンターなどの重要施設。

経済活動の要を網羅し、その円滑な稼働に貢献するため、私たちは高効率で高信頼な施設づくりと確実なファシリティマネジメントで、社会の安心と活力を支え続けています。

商品・サービスの事例
- 高機能ビルマネジメント
- 100年BCP®
- Fデータセンター®
- 地震リスク/耐震診断

Business

例えば、太陽光を活用するメガソーラー。

限りある資源を有効活用し、豊かな地球を次世代に残すため、私たちはエネルギーを有効活用し、低炭素化を推進しています。

商品・サービスの事例
- メガソーラー
- 複合型再生可能エネルギーシステム
- 太陽光発電所保守サービス
- 植物工場Fit-Farm®

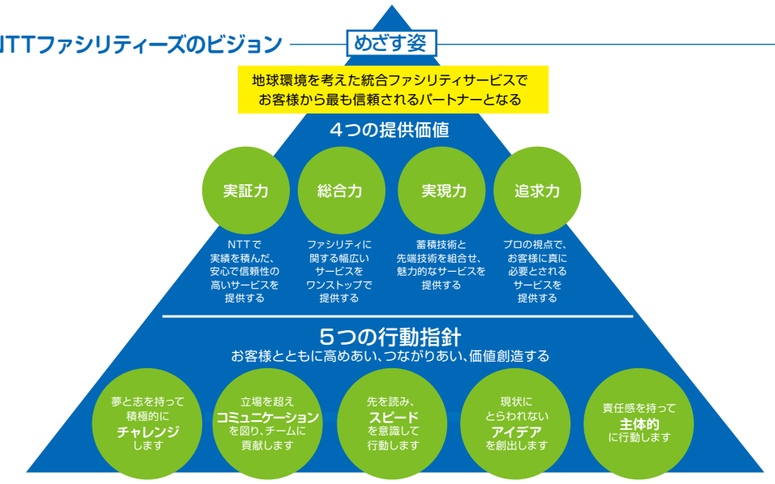
Environment

私たちのCSR

私たちNTTファシリティーズグループは、事業を通じ社会へ貢献し続ける「サステナビリティ経営」を重視しています。
このため、社会の変化を捉えたCSR活動を常に心がけると同時に、その全職場での実践を徹底しています。

NTTファシリティーズのグループビジョン

私たちは、4つの提供価値と5つの行動指針を骨子としたグループビジョンを共有し、最先端で高品質な製品・サービスを提供し続けます。



重視している「社会の変化」

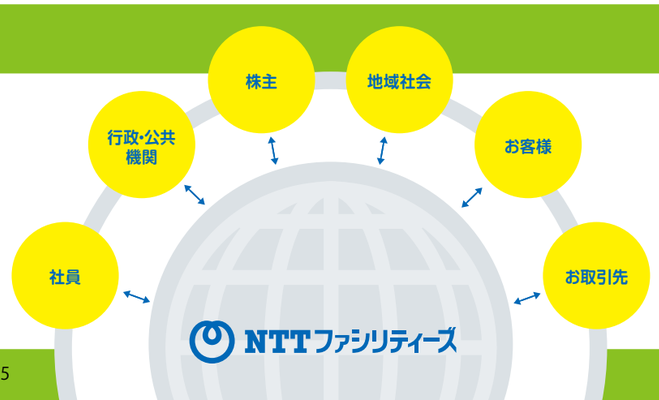
事業を通じ社会に貢献し続けるため、日々、社会の変化を見据えた製品・サービス開発を心がけています。

- IoT(社会の様々な機器のネット連携)の進化と、社会のスマート化
- 地球温暖化の進行とエネルギー資源の枯渇
- 自然災害の頻発・激甚化
- 高齢化社会の加速

NTTファシリティーズのサステナビリティ経営とマテリアリティ

私たちは、グループビジョンの実践にあたり、持続可能な社会づくりに貢献し続けるため、継続的なCSR活動の4つの重点テーマを設定しています。
各重点テーマ内の取り組みの柱は、社会の変化を踏まえ定期的に検証・更新していきます。

5,500名で取り組むCSR

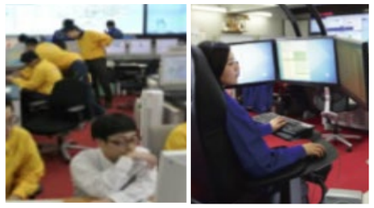


ステークホルダーの視点や意見に配慮し、より良い業務の実現に活かす「エンゲージメント」が、サステナビリティ経営の基盤として重みをましています。
5,500名の社員それぞれが、日々、お客様や社会の皆様の声に耳を傾け、事業の改善とさらなる社会的責任の遂行を心がけています。

全ての現場で、チームとして、サステナブルな社会づくりに挑戦する

環境保全を通じて

日常業務を通じて



インフラの安定化を通じて

社会の変化を見据え、より良い明日へ貢献する

発刊によせて

企業に対し、持続可能な社会づくりへの貢献が一層求められる中、私たちNTTファシリティーズグループでは「地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる」を「めざす姿」に掲げ、事業の特長を活かしたCSR活動を展開してきました。それらの成果を、NTTグループが共有する「NTTグループCSR憲章」において重点的に取り組むとした、4つの「CSRテーマ」に即しご報告します。

持続可能な社会づくりに向け、新たな価値を創造する

持続可能なより良い社会を実現するためには、様々な課題を達成し、適応していく必要があります。環境面では地球温暖化などの地球環境問題への対応が、経済面ではエネルギーや食糧資源問題などへの対応が、また社会面では性別やハンディキャップの有無などに関係なく活躍できる社会の実現などへの対応が求められています。

企業に対しては、課題達成に向け、自社の事業特性を活かした製品やサービスの提供により新たな価値の創造が求められていると強く実感しています。

私たちNTTファシリティーズグループは、ファシリティを「社会を支える施設や設備全て」と位置づけ、皆様の日常を様々な場所で支え続ける事業を展開しています。

事業を通じた社会課題の達成をめざし、環境にやさしく安心・安全な建物設計を行うこと、システムインテグレーターとして最適な太陽光発電システムを構築すること、データセンターやオフィスビルの省エネルギー化を推進すること、様々なリスクに対応した高信頼なBCP（事業継続計画）を実現すること、そしてこれらをトータルで管理・運用するファシリティサービスを提供することで、「Smart & Safety」な街づくりを推進していきます。

私たちはこれからも、社会の変化を見据え、優れた製品・サービスの提供により、より良い未来に貢献する価値の創造に挑戦し続けます。

社会の一員としての責任を果たす

「事業を通じた貢献」とならび、「法令順守、倫理的な事業慣行」に対しても、社会の厳しい目が向けられています。より良い社会づくりに貢献していくためには、私たち一人ひとりが高い規範意識を持ち、また企業市民としての責任を自覚し、CSR経営の基盤を強化し続ける必要があります。このような問題意識に立ち、私たちは、引き続き「企業倫理」「人権啓発」「情報セキュリティ」「環境保護」をCSRマネジメントの4本柱に据え、責任ある企業風土の醸成にまい進しています。特に人権問題は、「あらゆる差別を許さない企業体質の確立」をめざし、全社員に対する啓発活動を継続するとともに、事業活動を通じて人権問題の解決に努めています。

これらの取り組みを通じ、社会との信頼関係を強化し続けることこそ、NTTファシリティーズグループが「お客様から最も信頼されるパートナーとなる」ため必須の経営課題であることを、経営陣はじめ社員一人ひとりが肝に銘じてまいります。

「Smart & Safety」をコンセプトに、グローバル化を加速する

お客様の事業フィールドが海外へと広がりを見せる現在、私たちNTTファシリティーズグループも「Smart & Safety」を国内外での共通コンセプトにグローバル化を加速しています。

同時に、事業展開の指針となる企業ビジョンや高い規範意識などの「軸となる価値観」の共有も、海外グループ企業を含めグループ全体で進めています。

当報告書は、そのような私たちの活動の2014年度のハイライトです。私たちがより良い企業グループとなるために、忌憚のないご意見・ご感想を頂戴できれば幸いです。

株式会社NTTファシリティーズ
代表取締役社長

筒井 清志

人と社会のコミュニケーション

持続可能な社会の実現に向け、先進のファシリティで挑む

「情報通信技術（ICT）」を活用し、様々な機械がネットワークでつながった、安心・快適・便利な日常―スマート化された社会の実現に向け、日々、技術革新が続いています。
私たちNTT ファシリティーズは、オフィスや公的機関など、社会を支えるファシリティの革新を通じ、社会の進歩に挑戦しています。

CSRテーマ

私たちは、より豊かで便利なコミュニケーション環境を実現するとともに、情報通信技術を活用し、人口減少・高齢化社会における様々な課題解決に貢献します。

CSR活動の柱

- 安全でスマートな社会づくりへの貢献
- グローバルな事業展開による世界各地への貢献
- 震災からの復旧・復興支援

Smart & Safety

食卓を彩る野菜たち。その生産方法にもイノベーションが進みつつあります。より衛生的で、より効率的な農業に向け、ICTの活用が注目されています。

CASE01

社会のスマート化をリードするソリューションの開発

私たちが注目している社会の変化

IoT（社会の様々な機器のネット連携）の進化と社会のスマート化

日常にあふれる様々な電気機器がインターネットでつながり、効率的に連携・制御しあう、IoT（Internet of Things:モノのインターネット化 ）の浸透が世界各地で進んでいます。その潮流は世界の仕組みを変える「メガトレンド」の1つと目されるまでになりました。総務省の調査では、電子機器がやりとりするデジタルデータの国内流通量は、2005年～2013年の間で8倍以上に急増していると推計されています。

新たなネットワーク社会の到来を視野に、NTTファシリティーズも、長らく培ってきたIT技術とファシリティ管理技術とを活用し、設備とIoTの融合に取り組んでいます。その成果は、ファシリティのスマート化として着実に実をむすびつつあります。

国内流通量の推移

出典：平成26年版　情報通信白書(総務省)よりNTTファシリティーズ作成

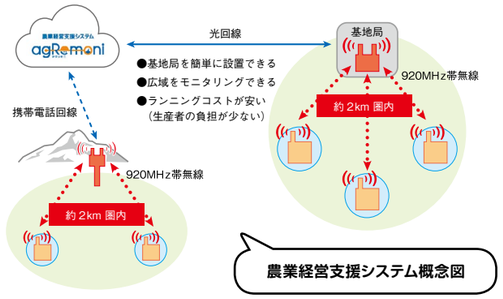
私たちのアクション

ファシリティのスマート化による社会の革新

農業のスマート化を通じて、より効率的で柔軟な生産方法を模索する「次世代農業プロジェクト」が国内外で進んでいますが、NTTファシリティーズは、農業用施設のスマート化の切り口で、これらに積極的に関与しています。具体的には、クラウド技術を活用した農業支援システム「agRemoni（アグリモニ）」を基点に、その拡充を進めています。

同システムはハウスなどの環境状況や作物の育成状況のモニタリング、農作業のスケジュール管理や異常検知といった作物育成に関する各種データを統合的に管理し、最適な栽培環境の構築を支援するものです。現在は、農林水産省の委託事業として、同システムに遠隔制御の仕組みと自営広域無線（920MHz帯）を実装する実証研究を進めています。これにより、「遠隔地での情報管理」に加え「遠隔地からの施設制御」も一歩踏み込んで行う事が可能となり、より広範囲な農業施設での活用や、被災地のような「通い農業」を余儀なくされている地域での活用も期待できます。実証実験では年間収穫量も35%増加するという成果を収めています。

将来的には、これら情報をビッグデータ解析することで、栽培目的に対応した最適環境制御や省エネなどに寄与する、よりきめ細かい次世代農業システムの実現が期待されます。



農業経営支援システム概念図

人と地球のコミュニケーション

ファシリティのグリーン化は、私たちの使命

地球温暖化の加速や、生物の多様性の減少―深刻化する環境問題を克服し、健やかな地球を次世代に残すことは、社会全体の責務です。私たちNTT ファシリティーズは、「地球環境を考えた統合ファシリティサービスでお客様から最も信頼されるパートナーとなる」というめざす姿に即し、自社の、そして社会のグリーン化に取り組んでいます。

CSRテーマ

私たちは、自らの環境負荷を低減し、地球にやさしいコミュニケーション環境を構築するとともに、情報通信サービスの提供を通じて社会全体の環境負荷低減に取り組みます。

CSR活動の柱

- 環境性能に優れた製品、サービスの実現
- 自社の環境負荷低減
- 環境リスク対策の徹底

Smart & Safety

地球温暖化に、氷河の融解や海面の上昇といった問題が深刻化しています。豊かで多様な地球を残すため、世界規模での取り組みの必要性が高まっています。

CASE02

低炭素社会の実現に貢献する事業の推進

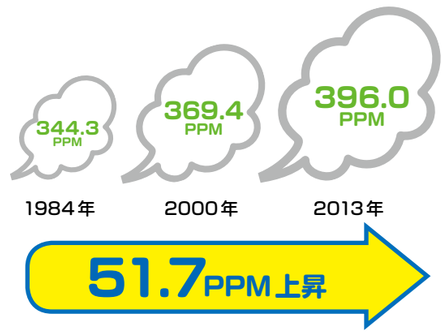
私たちが注目している社会の変化

地球温暖化の進行

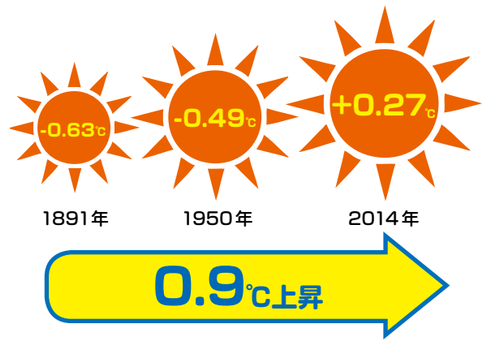
世界的に続く平均気温の上昇や頻発する異常気象は、各地に深刻な損失を及ぼしています。それらの一因として大気中のCO_2濃度の上昇が問題視されています。現在、低炭素化の取り組みが世界規模で進行中ですがCO_2濃度の上昇傾向には歯止めがかかっていません。このように、地球温暖化は、早急な対策が求められるメガトレンドといえます。

NTTファシリティーズも、経済活動を支える多彩な設備群の構築や運用、管理を担う企業として、その低炭素化を推進することを社会から期待されています。これをうけ、先進の省エネ機器や洗練された統合管理システムの導入を積極的に推進し、低炭素社会の実現をけん引しています。

世界のCO_2濃度の推移
（全球での年平均値）



世界の気温の推移
（1981年～2010年の30年平均値に対する偏差）



出典：気象庁、及び温室効果ガス世界資料センター開示データよりNTTファシリティーズ作成

私たちのアクション

データセンターの空調電力を半減する「FMACS-V hybrid」

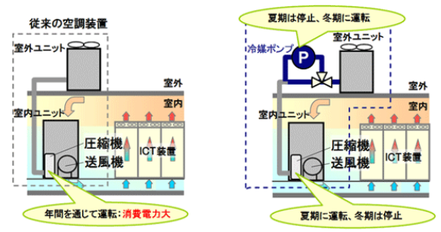
ICTを活用したサービスは、ビジネスや日常生活に深く浸透しており、ICT装置を集中管理するデータセンターの重要性は高まっています。重要性の高まりとともに消費電力も増加しており、省エネルギー化が強く求められています。

データセンターでは、ICT装置を安定して運用するため、専用の空調設備が、圧縮機を用いた「圧縮サイクル」により、年間を通じて冷房運転を行うのが一般的です。

NTTファシリティーズでは、空調設備の省エネルギー化に向けて、自然エネルギーを活用する高効率空調装置「FMACS-V hybrid」を開発しました。開発した空調装置は、外気温度が低い時期には、圧縮機よりも消費電力の小さい冷媒ポンプにより冷房を行う「ポンプサイクル」、外気温度が高い時期には、効率を改善した「圧縮サイクル」と外気温度に応じて2つのサイクルを自動で切替え、冷房を行う特長があります。

「FMACS-V hybrid」により、年間を通じて高い運転効率にて運用が可能となり、データセンターの空調電力を半減することが可能です。このような技術の先進性が評価され、「FMACS-V hybrid」は、（一社）日本機械工業連合会主催による平成26年度優秀省エネルギー機器表彰「経済産業大臣賞」を受賞しました。

従来の空調装置と「FMACS®-V hybrid」の運転方式比較



CASE03

自然エネルギーを積極活用した社会の実現

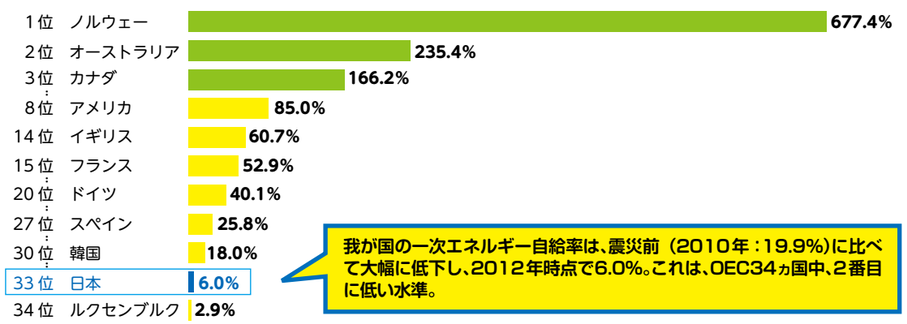
私たちが注目している社会の変化

エネルギー資源の枯渇

人口の増加や各国の経済発展を背景に、人類が必要とする天然資源の量は増加しています。一方、天然資源は有限であり、供給量の増加が需要量の増加に追い付いていないのが現状です。特に石油や天然ガスといった化石燃料由来のエネルギー資源は世界的に希少化が懸念されており、世界各国のエネルギー自給率の低さとあいまって、将来的な国際紛争のリスク要因となる可能性も指摘されています。

エネルギー供給問題に抜本的な対策が求められる中、NTTファシリティーズは、化石燃料と異なり潤沢な供給が期待でき、かつ低炭素化にも貢献できる自然エネルギー、特に太陽光の活用に着目し、サステナブルな社会づくりの可能性を模索しています。

エネルギー自給率



我が国の一次エネルギー自給率は、震災前（2010年：19.9%）に比べて大幅に低下し、2012年時点で6.0%。これは、OEC34ヵ国中、2番目に低い水準。

出典：平成25年度 エネルギー白書（経済産業省）よりNTTファシリティーズ作成

私たちのアクション

Fソーラーリサーチパーク

Fソーラーリサーチパークは、NTTファシリティーズが山梨県北杜市に独自に構築した太陽光発電実証サイトです。太陽光発電の技術は日々進化しており、特にその活用の場が広がり続ける中、安全・確実で効果的な設備運用ノウハウの蓄積は、私たちNTTファシリティーズの最も重要な責任の1つであるといえます。

同パークは、このような問題意識のもと、多様な実環境下での評価・検証を行う最先端の実証フィールドです。2015年10月現在、約4万m²の敷地内では4つの評価・検証（モジュール評価、架台検証、設計技術検証、スマートビジネス検証）を展開し、太陽光発電の未来を担うシステムインテグレーターとして、最高峰の太陽光発電システムの提供に挑み続けます。その成果は、総合発電効率※を90%以上にするシステム設計技術や低コスト・長寿命・施工性・デザイン性を追求したソーラーパネルECO架台「FIT SOLAR®」などに活かされ、日本各地のメガソーラーを支えています。今後とも、世界的な技術進歩に合わせて実証内容を刷新しつつ施設を拡張し、最終的には2MW級の発電施設を構築する予定です。

※ 発電時のエネルギー変換ロスをゼロとした「理想発電量」に対する、実発電量の割合。
一般的には総合効率は65～80%。

設計技術検証エリア

Fソーラーリサーチパーク 全体

次世代を支える、太陽光発電システム構築ソリューション

MEGA SOLAR

メガソーラー

NTTファシリティーズの太陽光発電事業

全国に展開するメガソーラー発電所

NTTファシリティーズは、太陽光発電の発電事業者として、またシステムインテグレーターとして、日本における自然エネルギーの有効活用を推進します。

1	ソーラーガーデン姫神	1.6 MW	14	F常滑太陽光発電所	1.1 MW	27	F琴海形上太陽光発電所	1.9 MW	40	F南島原太陽光発電所	2.1 MW
2	F宮の郷(東サイト)太陽光発電所	1.1 MW	15	F鈴鹿太陽光発電所	2.2 MW	28	F都城太陽光発電所	0.3 MW	41	F多良木太陽光発電所	4.8 MW
3	F小幡太陽光発電所	2.4 MW	16	F伊賀太陽光発電所	1.3 MW	29	F宮の郷（西サイト）太陽光発電所	2.5 MW	42	F日高川太陽光発電所	1.2 MW
4	Fつくばみらい太陽光発電所	1.1 MW	17	F多可太陽光発電所	1.7 MW	30	F牛久太陽光発電所	4.0 MW	43	F香南山北太陽光発電所	2.5 MW
5	F阿見太陽光発電所	2.3 MW	18	F西宮太陽光発電所	2.0 MW	31	F北浦太陽光発電所	6.5 MW	44	F今治玉川太陽光発電所	2.5 MW
6	F土浦太陽光発電所	1.7 MW	19	F洲本太陽光発電所	1.7 MW	32	F松江太陽光発電所	1.7 MW	45	F岐阜御望太陽光発電所	2.0 MW
7	Fあさひ太陽光発電所	5.2 MW	20	F海南太陽光発電所	1.9 MW	33	F豊後高田太陽光発電所	1.9 MW	46	F勝浦太陽光発電所	1.3 MW
8	F佐倉太陽光発電所	2.3 MW	21	F尾道太陽光発電所	1.5 MW	34	F大町太陽光発電所	1.6 MW	47	F茨野太陽光発電所	1.3 MW
9	F下秋間太陽光発電所	3.4 MW	22	F宮島太陽光発電所	2.1 MW	35	F鹿嶋太陽光発電所	4.8 MW	48	F前橋太陽光発電所	4.9 MW
10	F白州太陽光発電所	1.6 MW	23	F仁井田太陽光発電所	0.3 MW	36	F富士宮太陽光発電所	1.3 MW	49	F香南野市太陽光発電所	1.5 MW
11	F明野太陽光発電所	1.0 MW	24	F臼杵太陽光発電所	2.4 MW	37	F土浦II太陽光発電所	2.3 MW	50	F高知浦戸太陽光発電所	2.4 MW
12	F恵那中野方太陽光発電所	0.9 MW	25	吉野ヶ里メガソーラー発電所	12.0 MW	38	F日光太陽光発電所	2.5 MW			
13	F恵那山岡太陽光発電所	1.1 MW	26	F小城太陽光発電所	1.3 MW	39	F浜田太陽光発電所	1.5 MW			

安心・安全なコミュニケーション

生活インフラとして、24時間365日、支え続ける

高度情報化社会において、ファシリティはBCP対策の要ー震災など自然災害が発生した際、施設では、安全性はもちろんのこと、安定的な稼働が維持されることも重要です。このためには、電力装置のみでなく情報通信設備もまた施設の中枢を担う機器と位置づけ、稼働を確保する必要があると、私たちNTTファシリティーズは考えます。

CSRテーマ

私たちは、情報セキュリティの確保や通信の利用に関する社会的な課題に真摯に取り組み、安心・安全な利用環境と新しいコミュニケーション文化の創造・発展に尽くします。
私たちは、社会を支え生活を守る重要なインフラとして、災害時にも強い情報通信サービスの提供に努め、いつでも、どこでも、だれとでもつながる安心と信頼を提供します。

CSR活動の柱

- 情報セキュリティの徹底
- リスクマネジメント、BCP 対策の強化

Smart & Safety

日常生活の拠点である公共性施設などには、「もしもの時もダウンしない」強靭さが必要です。現在、街の様々なファシリティで強靭化の取り組みが着実に進んでいます。

CASE04

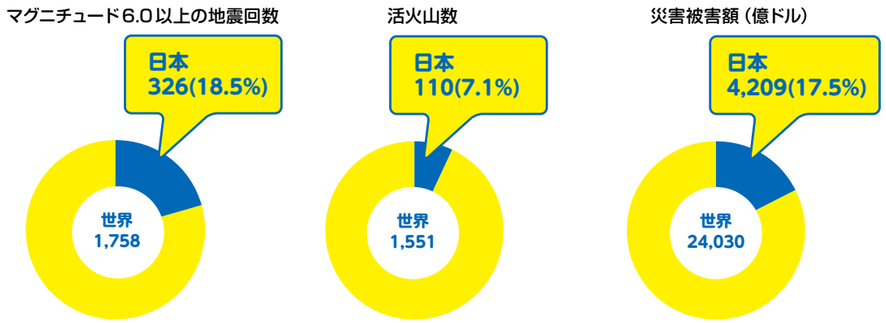
社会インフラのレジリエント化

私たちが注目している社会の変化

自然災害の頻発・激甚化

近年、日本では、地震の発生回数が高めに推移し、また各地での火山活動も活発になっています。また地球温暖化を一因とする異常気象などにより、突風や集中豪雨といった激しい天候も頻発しています。このような自然災害の激甚化、頻発化は、日本に限らず世界的に留意すべき傾向と位置づけられ、各国でライフラインの確保を目的とした生活インフラの刷新、堅牢化などが急がれています。
NTTファシリティーズはこの問題を重視し、自然災害に強くBCP(事業継続)に貢献するファシリティづくりを常に考えています。その成果は、公共施設をはじめとする社会の様々な場所で活きています。

世界の災害に占める日本の災害被害（1984～2013年）



出典：平成27年版　防災白書（内閣府）よりNTTファシリティーズ作成

私たちのアクション

公共施設の堅牢性、強靭性を高めるファシリティづくり

NTTファシリティーズは官公庁や放送施設など様々な公共施設の構築・運用を担っていますが、一貫して、有事に備えた堅牢性、強靭性に優れたものづくりを重視しています。その成果は多様な形で社会の安心・安全に寄与しています。
例えば通信施設は、常に通信を維持しうる設備対策が重要です。NHK放送会館では、落雷対策や非構造部材（建物内の各種通信用機器など）の耐震化を行い、災害時も公共放送の拠点としての機能を維持するためのファシリティづくりをきめ細かく実現しました。また、地方自治体の庁舎は、有事の復旧拠点としてのBCP対策が必要です。狛江市庁舎では、改修・増築に際し、平時の省エネ化はもちろんのこと、防災拠点としての役割を重視し、免振構造の導入や自家発電設備の設置、非常用用水（井水）の確保などを徹底しました。
これらの事例には、「レジリエントな社会構築のための技術開発」を継続的に展開してきたNTTファシリティーズグループならではのノウハウが随所に活きています。これからも、Smart&Safetyをキーワードに、先進の技術を活かしたものづくりを続け、社会のレジリエント化に貢献します。

狛江市庁舎

チームNTTのコミュニケーション

社員を活かし、社員と共に歩む

社員は、企業と共に成長する貴重なパートナー — 高齢化社会の進展やライフスタイルの多様化など、「共に歩むチーム」である社員への配慮のため、企業が対応すべき社会的な課題は多数あります。また、企業市民として地域コミュニティとの良好な関係づくりが求められる中、その担い手である社員と価値観を共有し、行動を促すことの重要性も、日々、増しています。

CSRテーマ

私たちは、“チームNTT”として、高い倫理観と人権意識を持って事業に取り組み、働きやすい職場環境の整備や個の成長・多様性の尊重に努めるとともに豊かな地域社会づくりを推進し、社会的使命を果していきます。

CSR活動の柱

- 人権啓発の推進
- 多様性の尊重と働きやすい職場づくり
- CS（お客様満足）の継続的向上
- 社会貢献活動の推進

Smart & Safety

先進国を中心に進む少子高齢化の波は、日本にも及びつつあります。企業は、社会の一員として、これを踏まえた「仕組みづくり」を進めつつあります。

CASE05

多様な人々を活かす社会づくり

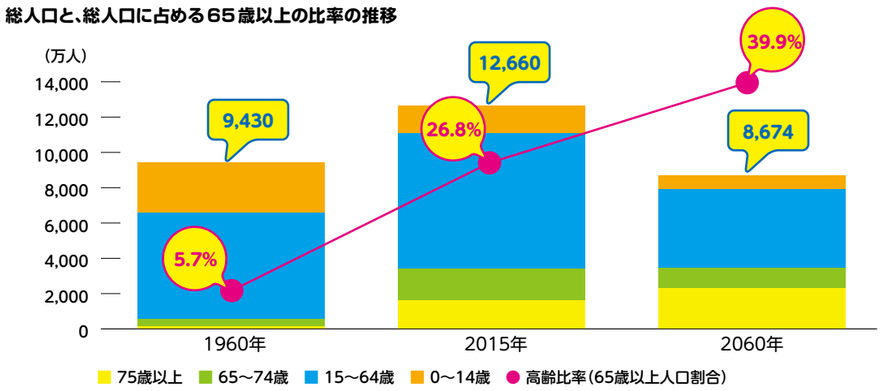
私たちが注目している社会の変化

高齢化社会の加速

従来、少子高齢化は、主に欧州各国でクローズアップされてきましたが、日本も抜本的な対策が必要な状況にあるといえます。総務省の試算では、2060年以降、日本の人口に占める65歳以上の比率は40%を超えるなど、未曽有の高齢社会の到来が予想されています。このような中、お年寄りが安心して暮らしていける社会づくりはもちろん、若年人口を労働力として有効に活用する仕組みづくりも、日本が取り組むべき社会的課題となっています。

特に日本企業は、自社の持続的成長のリスク要因としてこの問題を注視しつつあり、働き盛りの労働力をひきつけ、かつ多様な人材に活躍の場を提供できる職場づくりに向け、人事制度の見直しが加速しています。

総人口と、総人口に占める65歳以上の比率の推移



私たちのアクション

ダイバーシティを推進する企業グループに向けた制度整備

NTTグループは、多様な人材が活躍できる企業グループの実現をめざし、2007年に「ダイバーシティ推進室」を設置し、グループ各社連携のもと、多彩な活動を展開しています。ＮＴＴファシリティーズもグループの一員として、「一人ひとりのワークとライフをともに充実させ、一人ひとりが持てる能力を最大限に発揮できる会社になることで、多様性を強みに変えていける企業になる。」ことを基本方針として定め、ダイバーシティ推進活動に継続的に取り組んでいます。

なかでも、多様な人材の活用促進を重点施策の1つと位置づけ、女性社員の管理者への育成や子育て世代社員のワーク・ライフ・バランス支援などを積極的に推進し、2期連続で次世代認定マーク「くるみん」を取得しているほか、障がい者雇用機会の拡大、定年退職者の継続雇用にも力を入れており、より多様な人材が自分らしい働き方、活躍の場を選ぶことができる職場づくりに挑戦しています。

また、全ての社員の生産性向上とワーク・ライフ・バランスの実現を推進するため、働き方改革に挑戦しています。

●ダイバーシティーを尊重する企業文化・風土の醸成

・少数者側を尊重する企業文化を醸成することで、イノベーションが実現しやすい風土を醸成する

●ワーク・ライフ・バランスの推進

・働き方改革により、育児や介護など時間的制約のある社員も含めた全ての社員がワーク、ライフともに充実し生産性高く働ける会社となる

●多様な人材の活躍推進

・女性社員、障がいを持つ社員、介護を行う社員、外国籍社員等、少数者側の社員が、多様性を活かして活躍できる仕組みを構築する

第1段階 → 第2段階 → 第3段階

- 第1段階：ダイバーシティの理解促進活動と女性活躍の環境づくり
- 第2段階：多様性を重視する風土づくりと働き方改革
- 第3段階：働きやすい職場環境の実現と企業価値の向上

CSR経営の基盤

コーポレート・ガバナンス、CSR 推進体制

コーポレート・ガバナンス

NTTファシリティーズでは、経営の健全性と透明性、お客様や社会からの信頼を維持し、企業価値を継続して高めていくため、コーポレート・ガバナンスを経営の重要課題と位置づけ、ガバナンス体制を構築しています。

取締役会・監査役会の構成

取締役会は取締役16名で構成され、原則、月1回開催する取締役会において、経営に関する重要事項を関係法規、経営判断の原則及び善良なる管理者の注意義務等に基づき決定するとともに、取締役の職務執行の相互牽制などを行っています。

監査役会は、社外監査役２名を含む監査役３名で構成され、原則、月１回監査役会を開催するほか、各監査役は、取締役会など重要な会議に出席しています。

経営会議と各種社内委員会

NTTファシリティーズでは、会社の重要事項について、原則として、社長、副社長、常勤取締役及び各組織長で構成する経営会議における審議を経たうえで決定しています。

また、会社経営・グループ経営に関する重要事項を課題ごとに議論し、適正な意思決定を行うための各種委員会を設置しています。

内部統制システム

NTTファシリティーズでは、NTTグループ全体の「内部統制システムの整備に関する基本方針」などに従い、同システムに必要な措置を実施することを取締役会で決議し、規程や体制などの整備に取り組んでいます。

また、財務報告に係る内部統制システムについても、内部監査などにより有効性を確認しています。

CSR マネジメント体制

NTTファシリティーズグループは、NTTグループのCSRテーマに即したCSR 重点活動項目を推進し社会に新たな価値を創造する一方、自社グループが社会に一層の責任を果たし続けるため、特に「企業倫理」「環境保護」「人権啓発」をCSRマネジメントの柱と位置づけています。具体的には、それぞれに社内委員会を設置し、企業ビジョンとの整合性を確保しつつ、基本方針・制度・基準・活動要領などを策定し、研修などの一体的な運営を行っています。これらをもとに、事業を通じた影響を正負両面で管理しています。

また、CSRマネジメントをグループ横断で推進する要としてCSR推進室を本社と各地域会社に設置し、本社CSR 推進室を中心に緊密な連携を図りながら、当グループの一体感を高め、横断的なCSR 活動を推進しています。

企業倫理・人権啓発・コンプライアンス

企業倫理・人権啓発推進体制

NTTファシリティーズでは、企業倫理の徹底と人権啓発の推進強化に向けた取り組みを審議・決定することを目的に、副社長を委員長とした企業倫理・人権啓発推進委員会を設置しています。同委員会は、原則として年２回定期開催するほか、社員から不正行為などの申告・相談があった事案について、事実関係の調査・究明に当たります。

相談窓口体制の充実

NTTファシリティーズでは、不正・不祥事の未然防止のみでなく、早期に問題の顕在化を図り迅速に対処することを目的に、企業倫理相談窓口として、「企業倫理ヘルプライン」を設置しています。また、NTTグループの横断的な窓口として弁護士による社外相談窓口を活用し、当グループ内のほか、取引先など社外からの相談も受けつけています。

これらの相談窓口の周知は、社内誌や社内HPなどのほか、「職場の悩み110番（セクハラ・パワハラ・人権問題等）」、「カウンセリングセンタ(人間関係、家庭、仕事等)」の相談窓口全ての連絡先を記載した携帯カードを作成し、全社員に配付しています。

企業倫理意識の向上施策

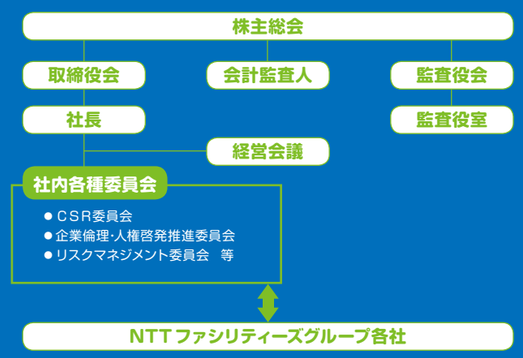
NTTファシリティーズでは、日本経団連の企業倫理月間に合わせ、10月を「企業倫理推進月間」に設定し、社内誌や社内ホームページを通じて、企業倫理の重要性やCSR推進室長のメッセージを発信し、社員の企業倫理意識のさらなる向上を図っています。

さらに毎年、全社員が不正・不祥事、法令違反、人権問題などについて、わかりやすく理解できるよう具体的事例を挙げて、何が不正・不祥事などに当たるのかをクイズ形式で学ぶ「企業倫理等eラーニング」も実施しています。

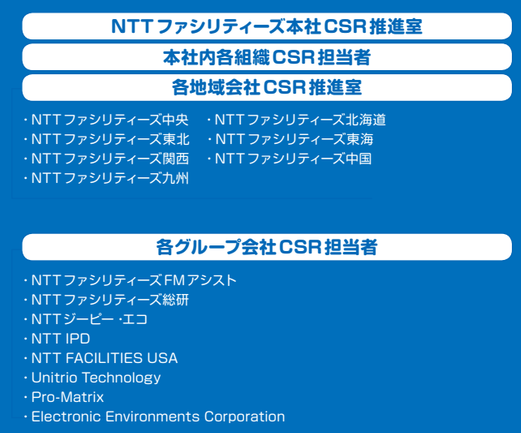
企業倫理・人権啓発アンケートの継続実施

企業倫理や人権啓発に関わる施策の浸透状況や社員等の意識、風通しの良い風土などについて、アンケートにより現状を把握し、ファシリティーズグループにおける今後の企業倫理・人権啓発活動のさらなる徹底・意識向上に向けた取り組みとしてWebアンケートを継続的に実施しています。2014年度は、2015年3月にNTTファシリティーズグループ社員等を対象に実施しました（回答数：6,324人）。今後も、アンケートの結果を踏まえつつ、遵法かつ倫理的な事業慣行を企業グループ全体に維持・浸透していきます。

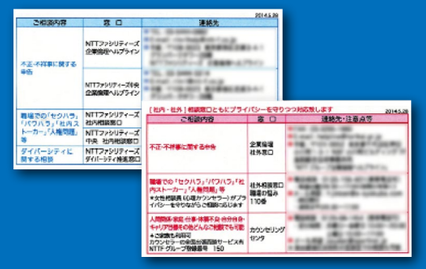
■ NTTファシリティーズのガバナンス体制



■ NTTファシリティーズグループ CSR推進体制

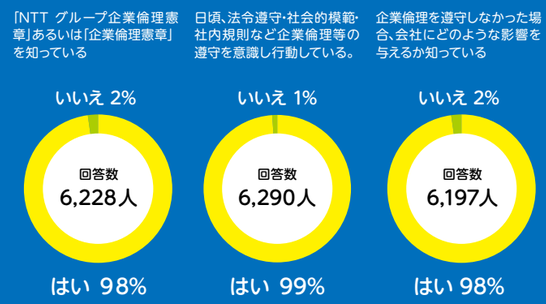


■ 各種相談窓口を記載した携帯カード



各種相談窓口　年間利用実績　20件

■ アンケート結果の一例



海外への拡大

01

米国のデータセンターエンジニアリング会社 EECグループへの出資

近年、クラウドサービスの普及などもあり、データセンターサービスへのニーズは拡大を続けています。中でも米国は同市場として世界屈指の規模を有しており、NTT ファシリティーズグループも重要な市場と位置づけ、取り組みを強化しています。この一環として、2014 年12 月、NTT ファシリティーズは米国でデータセンターの設備構築及び保守業務を展開するElectronic Environments Corporation(EEC) グループの過半数株式を取得。グループの一員としました。

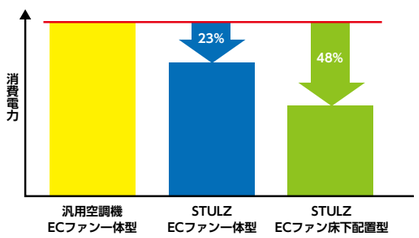
EEC グループは米国内に7 拠点を有するなど幅広いエリアに事業を展開し、データセンターの設計から機器調達、保守に至る幅広い分野で顧客の高い評価を得ています。同グループを加えることで、NTT ファシリティーズグループは、さらに幅広いグローバルサービスネットワークと顧客基盤を獲得することとなりました。

EEC グループを加え、さらに広がるグローバルネットワーク

GLOBAL

グローバルな事業で各地に貢献

消費電力の比較



ECファンとは、動力にEC モータを使用したファンです。EC モータは、固定子に永久磁石が使われ、回転子（電機子）にコイルを使って構成されるDC モータのうち、機械的接点を無くしたブラシレスDC モータのことを指し（半導体素子であるホールIC を使用して電子的に整流していることからEC :Electronically Commutated と呼ばれる）、耐久性と省エネ性に優れます。

データセンター空調シェア世界2位のドイツ STULZ社と事業提携

NTT ファシリティーズは2015 年5 月、ドイツのSTULZ社と事業提携し、同社のデータセンター用水冷空調機の日本国内における独占販売代理店契約を締結し、主に中・大規模データセンターを対象に販売及び保守サービスの提供を開始しました。

データセンターの冷却を担う空調システムの消費電力はデータセンター全体の4 割前後を占めるなど、その省エネルギー化が急務です。また、省スペースも引き続き重要な課題であり、サーバルームでの設備スペースの制約が少ない水冷空調機が注目されています。データセンター向け空調機の世界シェア2 位である同社の水冷空調機は、優れたコストパフォーマンスを有しながら業界トップクラスの省エネ性、省スペース性と高い冷却能力を兼ね備えています。同社製品をラインアップに加えたことで、NTT ファシリティーズは、より環境性能に優れた空調ソリューションの提案を推進します。

02

第三者意見

法政大学大学院 人間社会研究科
准教授
土肥 将敦 氏

一橋大学経済学部、一橋大学大学院商学研究科博士後期課程を経て、2009年に高崎経済大学地域政策学部准教授。2014年より現職。商学博士。著書に『CSR経営－企業の社会的責任とステイクホルダー』（共著、中央経済社）、『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』（共著、NTT出版）などがある。

「企業と社会の関係性を示す」ための報告書として

今年度のNTTファシリティーズのCSR報告書を拝見し、昨年に引き続き「読者が実生活で実感しやすい報告書」をめざしていることが読み取れる。ICT関連企業の報告書では、どうしても取引先にしかわからないような技術情報が中心になりがちであるが、本報告書で示されている次世代農業プロジェクト（P10）や、各メーカーの照明機器をスマホで制御するシステム（web詳細報告）、そしてサイクルシェアリング事業（同左）などは、IoT（Internet of Things：あらゆるモノをインターネットで接続していくこと）と施設（ファシリティ）との関わりを具体的に紐解く上で読者にとって分かりやすい事例である。この中でも、農業用データの管理・制御システムは、今後林業や漁業等へも応用が可能とされており期待が持てる。CSR報告書は、企業と社会のインターフェースにおける様々な関係性をステークホルダーに丁寧に示していくためのツールであり、今後もこうした様々な創意工夫を続けていって欲しい。以下では、同社のCSR活動における成果と情報開示等について今後の課題や展望をまとめておきたい。

CSR経営のさらなる進展をめざして

まず、再生可能エネルギーの買い取り価格が引き下げられ、太陽光発電の採算が厳しくなる中でも、同社のメガソーラー事業は拡大し続けており、我が国の地域分散型のエネルギーシステムの構築に大きく貢献している。とりわけ、P13にあるような実証実験拠点での、メガソーラーの導入が困難な傾斜地への、設置工法の積極的な研究開発に引き続き期待したい。

次に、情報開示への取り組みについてである。筆者はゼミナールや外部講義の中で、各社のCSR報告書を参考資料として用いることがあるが、その中で参加者からのコメントで最も多いのは、「企業の都合の良い情報しか出ておらず、信頼しにくい」というものである。CSRが日本社会に浸透していくに従って、市民社会の目も肥えていき、ポジティブ情報のみの報告では信頼を構築するどころか、逆に不信感へとつながってしまう場合もある。この点において、今年明らかになった顧客情報の流出問題等について記載されていることは重要である。今後の対策等について、来年度以降の本報告書においても説明を期待したい。大切なことは、こうしたネガティブな事案についても、社会に対してオープンで対話する姿勢を示していくことである。

最後に、昨年筆者は要所に定量的な目標を打ち立てたCSRアクションプランへの推進をめざすべきとの問題提起をした。これについてはまだ道半ばではあるが、同社では「『何故その事業が社会課題の解決になるのか』を具体的なデータと共に見せる」ことを目標とされていると聞く。最終的には、このCSR報告書の作成を契機として、同社全部門のスタッフが「われわれのプロジェクトは、社会の課題解決にあたり、こんなデータの改善に貢献している」と明確に意識づけられ、次年度に向かって進んでいけるような「羅針盤としての報告書」となるように期待したい。

第三者意見をうけて　NTTファシリティーズ　CSR推進室

NTTファシリティーズグループは、主にBtoB（企業間の物品の売買やサービスの提供を行う）事業を行うこともあり一般にはあまりなじみのない企業ですので、私たちの活動をより広く多くの方々に知っていただくこと、私たちと社会との関わりをわかりやすく発信していくことに重点をおきCSR報告書を作成していますが、この方向性について評価をいただきました。今後とも私たちの活動と社会の皆様との関係性をより丁寧に分かりやすく伝えていきたいと考えています。

また、情報開示のあり方やCSR 活動に関する包括的なアクションプランの設定などについてご提言をいただきました。今後は、私たちの今だけでなく私たちが何のため何をめざすのかもお伝えできるよう心がけてまいります。

NTTファシリティーズグループは、今後もステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切にしながら、“信頼されるパートナー”として、社会の持続的発展に貢献するべく取り組んでまいります。